



HOSHIBA

医療法人社団星秀会

# ほしば歯科医院ニュースレター

Vol.31

ようやく暖かくなりましたね。以前の診療室から見える風景はジャスコと葛西橋通りだけでしたのでなかなか季節を感じることができませんでした。しかし、今の診療室は、皆さんが出入りする自動ドア越しに行船公園の緑が見え、うれしいです。ちょっとしたことですが、精神衛生上すごく良いです。

さて、海外では SARS や戦争など暗いニュースで持ちきりです。本来ならば、ゴールデンウィークは海外へ行く人も多いのですが、本当に残念なことです。中東に旅行する方は多くないと思いますが、アメリカや香港、台湾へは予定していた方もおられたのではないのでしょうか。

そこで元気なのは、国内の旅行のパックだそうですね。近場の温泉に 2 泊 3 日位すれば落ち着きますよね。その上、格安で「アワビ食べ放題ツアー」だとか「伊勢海老温泉ツアー」だとかあるようですし。そして何よりディズニーランドではないでしょうか。この連休は例年よりも混雑必至(いや必死かもしれない)ですね。

さて、開業 20 年のディズニーランドは、国内でも有数の優良パークです。「一人勝ち」などとも言われますが、どこにその力があるのでしょうか。いくつか要因はあるでしょうが、一つには清潔であるということが挙げられます。パレードや花火を地べたに直接座っても汚い感じがしませんね。これは、目の前でキャストと呼ばれるスタッフが掃除している姿を目にしている効果も大きいのではないのでしょうか。

一般に、掃除は裏方の仕事であり、おじさん、おばさんがあまり人目につかないようにすると考えられています。しかし、ディズニーランドでは、ほうきとチリトリを持ったお兄さん、お姉さんが笑顔でかっこよく掃除する姿をいろんなところで目にします。逆にディズニーランドの象徴のようにも見えます。これも逆転の発想ですね。

世の中不景気、不景

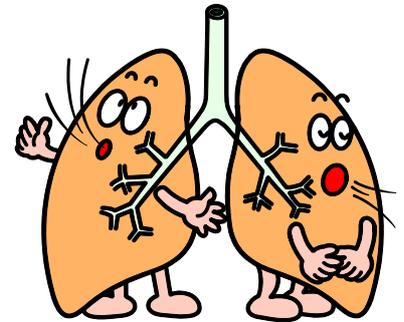


気の大合唱ですが、勝ち組の影にはアイディアがあるのだなあと感じます。さて、開業 20 周年のほしば歯科医院は・・・

## ✕ やっぱり肺炎 ✕

最近の恐怖はやっぱり恐怖の肺炎 SARS。しかし、肺炎の恐怖は今に始まったことではないのです。そこで今回は肺炎について考えてみましょう。

肺炎とは、さまざまな病原菌の感染によって肺に炎症が起こった



状態のことです。一般的には、体力が落ちているときや高齢になって免疫力が弱くなってくると、かかりやすくなると言われています。

肺炎の原因となる細菌やウイルス(SARS はウイルスと言われている)は、呼吸をするときに鼻や口から身体の中に侵入します。健康な人は、のどでこれらの病原菌を排除することができるのですが、風邪などをひいてのどに炎症が起こっていると、病原菌が素通りして肺に入ってしまう炎症をおこしてしまいます。

ただし、風邪にかかった全ての人肺炎になるのではなく、肺に侵入してしまった細菌の感染力が人の免疫力を上回った場合にだけ発症します。つまり、体調がよければ肺炎は起こさないのです。

日本では、全死因別にみると年間約 8 万人が肺炎により死亡し、その死亡率は 8.6% になります。死因順位は、最近 20 年間第 4 位を占めています(「国民衛生の動向」1999 年度版より)。ちなみに、交通事故で亡くなる方が 1 万人を超えたとき、「交通戦争」と呼ばれるようになったことを考えるとすごい数だと思いませんか？

風邪っぽいという症状でも油断しないでお医者さんに見てもらおうようにしてくださいね。

## ✕ 寝た子を起こす ✕

別に業界用語ではないのですが、僕たちの中で共通の認識になっているものがあります。それは、「寝た子を起こす」という状態です。別に、言葉に出してお互い話すわけではありませんが、診療しながら「寝た子を起こしちゃったよ...」という言葉が頭に浮かぶことがあります。そこで、今回はこの状態についてお話ししましょう。

具的な例を示しましょう。先日、上の前歯が欠けてしまい来院した方がいました。レントゲンを撮ってみると、以前、歯の神経を抜いて薬を入れてありました。ただし、数十年前に処置をされたらしく、中の薬がボロボロになっていました。まったく痛みなどはありませんでしたが、ご本人と相談し、改めて歯の根っこの処置をやり直してから前歯を作ることになりました。さっそく中の薬を取り出し、何回も洗浄してその日の処置は終わりました。数日後、その方は顔面を大きく腫らして来院されました。

このような経験は、歯医者であれば必ず経験しています。そこで浮かぶ言葉が「寝た子を起こす」なのです。

さて、これは何が起こったのでしょうか。実は、人間の持つ自己防衛能力（免疫）と関係があります。今回のケースでは、来院時の根の状態は、決して良好な状態ではありません。中で細菌が繁殖し、不潔な状況でした。しかし、慢性的にそのような状態が続いていたために、自己防衛能力が働き、症状が出ない状態を作り出していたのです。かつての米ソの冷戦のようなものです。戦争を実際しているわけではないけれども緊張状態が続いていたのです。体調を崩したり、寝不足が続いたりすると、防衛能力が低下してしまい、なんらかの症状が出ていたと思います。

今回の処置を行ったことで、細菌と防衛能力の均衡が崩れてしまい突発的な事故と判断した肉体が、細菌除去を積極的に始めたのです。分かり

やすく言うと、敵（細菌）を退治するために戦争を仕掛け、軍隊（白血球）が動員されたが、多くの兵士が戦死（膿）してしまい、焼け野原（腫れ）になってしまったのです。もちろん、戦争が終結してしまえば必ず正義軍が勝利します。



どこかの戦争で聞いたような気がしますが、短期決戦と味方の被害を最小限にするというのが目標です。しかし、その見通しを判断することは難しく、残念ながら被害が大きくなるケースもあるのです。

もし、症状のない歯を処置したために腫れたり、痛みが生じたとき、このようなことが起こっていることを思い出してみてください。もちろん我慢せずに診せてくださいね。

### ご意見はこちら

ほしば歯科医院へのご意見、ご感想、その他何でも受け付けております。どのような方法でも結構ですからお気軽におっしゃってください。

電話 03-3686-4657

ファックス 03-3877-7771

E-mail info@hoshiba.net

http://www.hoshiba.net

（ホームページの方もお気軽に）

### お知らせ



現在、江戸川区歯科医師会で要職を務めさせていただいております。これも地域のため、皆様のためと信じ頑張っていきたいと思っています。ただ、会議が毎日のように入っており、診療時間を短縮する日が増えております。予約がなく、閉院時間近くにご来院される方は、ぜひ一度ご連絡ください。

干場 貫二

### 編集後記

今年のゴールデンウィークはやっぱり家でのんびり...ということにしておきますか。行船公園だって十分楽しめますよね。でも、ちょっと寂しい気もします。

ほしば歯科医院ニュースレター 第31号  
発行日 2003年4月20日発行

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西1-13-7  
tel. 03-3686-4657 fax. 03-3877-7771  
e-mail. info@hoshiba.net  
http://www.hoshiba.net  
発行責任者 干場貫二